

○高山市における橋りょう長寿命化の取り組み

【概要】

高山市は、令和6年4月現在で941橋の橋りょうを管理しており、これら橋りょうは1960年代の高度成長期に建設され、多くが高齢化を迎えようとしています。今後は、高齢化した橋の修繕・架替えに要する経費を可能な限り縮減し、橋りょうの安全性・信頼性を確保し、効率的で効果的な維持管理が必要となります。

平成26年には道路法施行規則の改正により、5年に1回の定期点検が義務化され、本市においても令和元年に「高山市橋りょう長寿命化修繕計画（Ⅱ期計画）」を策定し、従来の「悪くなってから補修する管理」から「損傷が小さなうちに計画的に補修を行い、橋の長寿命化を図る管理」に移行し、健全な状態を長期間維持しつつ、今後必要となるコスト縮減を図る取り組みを行っています。

職員による橋りょう点検の様子



背景に映る「中橋」は、平成26年度に、耐震補強、橋脚補強、修繕工を実施しました。
特に高欄色については、「以前の色は朱色ではなく、もっと赤色であった。」との近隣の方々からの意見を参考に、8町内会、高山市景観町並保存連合会の皆様と相談、協力して、昔の中橋の色を再現しました。

職員による橋りょう点検の七つ道具



【建設課職員の業務】

「高山市橋りょう長寿命化修繕計画（Ⅱ期計画）」により計画的に修繕工の積算、発注、現場監督業務を行っています。

修繕工の発注前には、修繕工に関する設計業務を建設コンサルタントに委託し、どのような修繕をしたら、より延命化が図れるかなど一緒に修繕方法に頭をひねっています。

又、橋りょう点検は橋長15m以上の橋りょうは建設コンサルタントに業務を委託しますが、橋長15m未満の628橋におよぶ小さな橋りょうは、「ME」を取得した職員を中心に他の技術職員とチームを組んで点検を行い、適正な橋りょうの管理に努めています。

【ME】



MEとはメンテナンスエキスパートを略したものです。
「社会基盤メンテナンスエキスパート養成講座（4週間の短期集中講座）」を受講し、認定試験に合格したインフラ施設維持管理の高度専門技術者がMEです。
現在、高山市では年齢30代から50代の10名のMEが活躍しています。